

20周年に決意新た

舢倉島総合診療団が記念式

輪島市の舢倉島に年に一度、専門医が渡り診療を始めて二十年。三日、輪島港で舢倉島総合診療の記念式が行われ、医師、看護師ら十二人の診療団は相次ぐ激励と感謝の言葉に、離島の人々に対する専門医療や、心の交流を今後も続ける決意を新たにしました。

総合診療事業は一九八〇（昭和五十五）年、舢倉島診療所長に就任した疋島一徳医師（故人）の熱意や古川侃医師らの尽

力で三年後、実を結び、耳鼻咽喉科の小森貴医



診療用品を受け、決意を新たにする舢倉島総合診療団の小森団長

輪島港

師（五〇）金沢市が渡島し、過酷な潜水業務で外耳炎に悩む海女たちに接したことから始まる。

出発式は定期船の前で行われ、奥村二郎県健康福祉部長、粟原正一輪島市助役が二十年間の功勞をたたえた。小森団長は「総合診療を待ちわび、心から喜んでくれた島民と、この事業を通じて医師としての誇りを下さった関係者に感謝したい」とあいさつした。

過去八年間の診療実績によると、延べ九百十人が受診している。